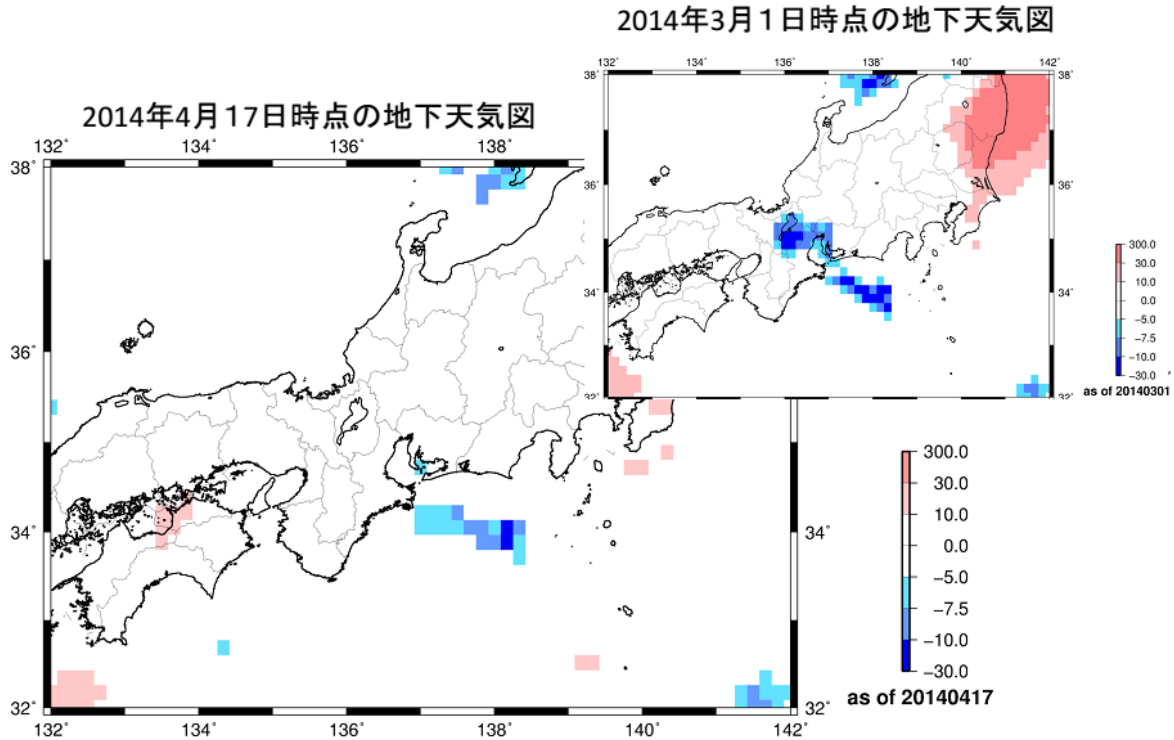
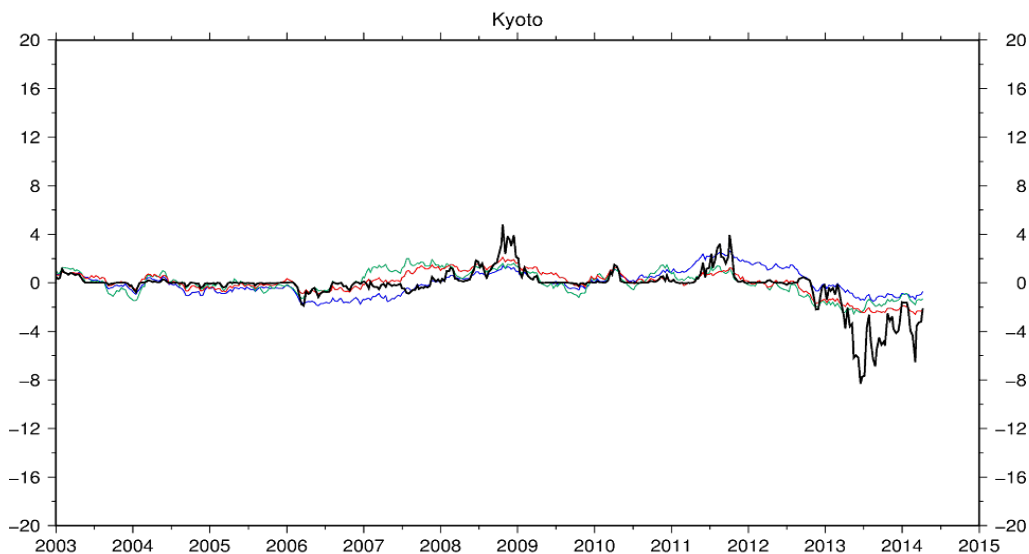


中部・関西地方の地震活動

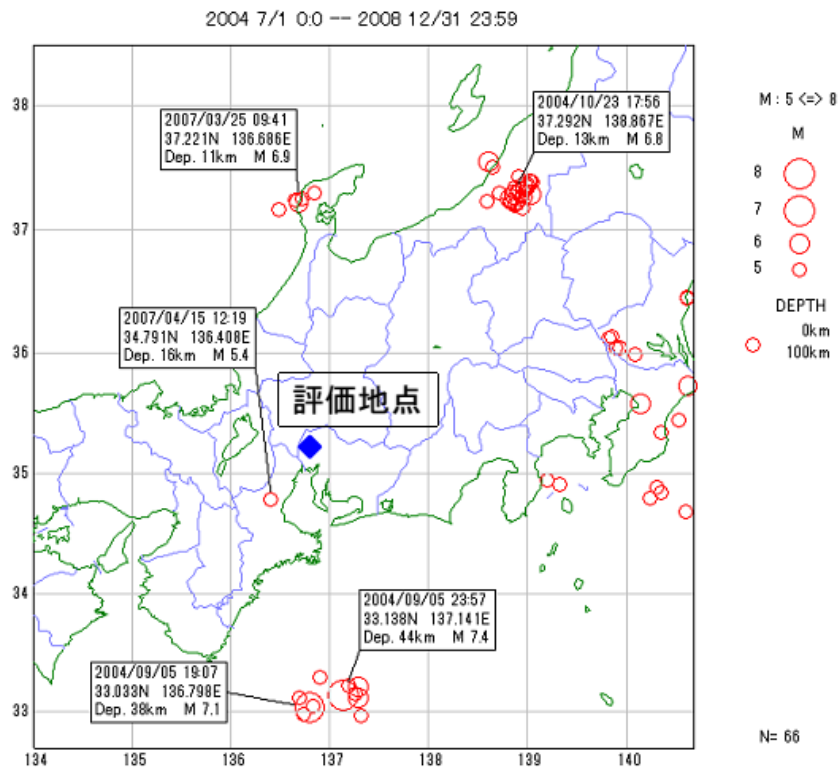
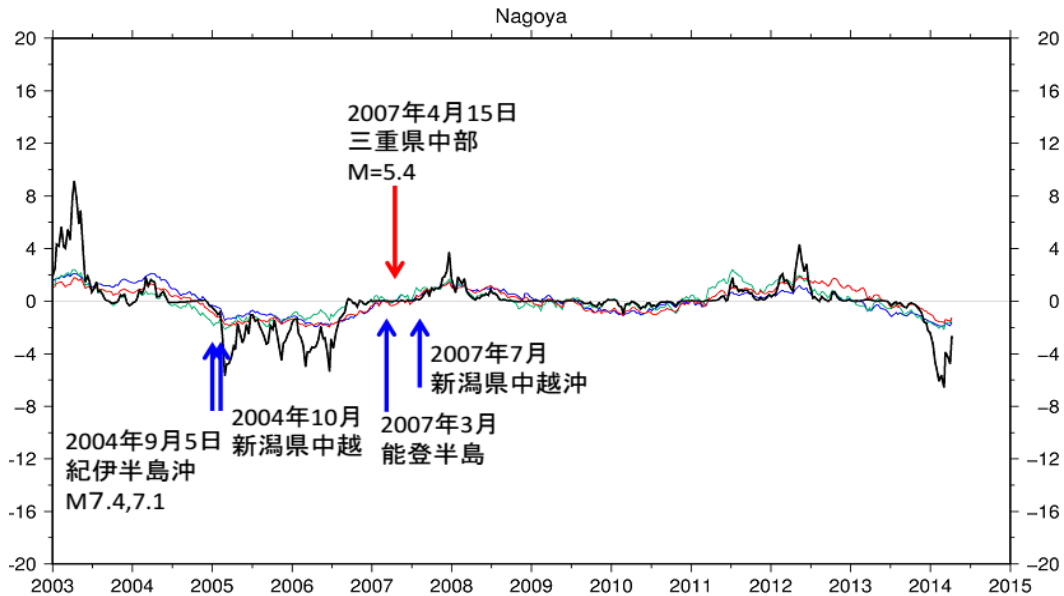
私どもは京都周辺の地震活動の変化に注目して、これまでも何度もニュースレターで情報発信してきました。今回は京都だけでなく、愛知県周辺の状況をお知らせします。下の図は以前お知らせした 2014年3月1日時点の地下天気図（右上）と最新の地下天気図（左下）です。琵琶湖周辺から愛知県にかけての青で示された異常領域がなくなっている事がわかります。



実は異常がないのは一概に良いこととは言えません（静穏化から回復した後に地震発生の可能性が高いため）。地震発生可能性を実際に判断するには、その地点での時間変化（時系列）を確認する必要があります。今回は京都と名古屋を評価してみたいと思います。下の図は**京都**における RTM 値の時間変化です。静穏化が消長を繰り返して、かなり小さくなっている事がわかります。過去の経験則では、地震発生はもう少し先になったと考えています。ただ静穏化の規模（特に面積）はそれほど大きくないことから、深刻な事態とは考えておりません。



また下の図は名古屋における RTM 値の時間変化です。実は名古屋は、非常に変わった時間変化を示していました。図からもわかりますが、2004 年終わりから 2006 年後半にかけて、静穏化・元の状態に復帰という事が繰り返し起こっていました。この静穏化に対応する地震としては、2007 年 4 月の三重県中部の地震が考えられます。この地震は 2001 年からの 13 年間で名古屋近辺で唯一マグニチュード 5 を超えた地震でした。そしてこの静穏化は 2004 年 9 月に紀伊半島沖で発生したマグニチュード 7 クラスの極めて珍しい地震発生後に開始し、その後中部地方では新潟県中越地震や 2007 年の能登半島地震、中越沖地震とつながる活発な中部・北陸地方での地震活動につながったように見えます。そして 2013 年終わりから名古屋周辺で久しぶりの地震活動静穏化が開始したように見えます。まだ継続時間も短い事から地震発生には至らないと考えておりますが、今後注目して監視していきたいと考えています。



2004 年 7 月 から 2008 年 に 中 部 地 方 で 発 生 し た M 5 以 上 の 地 震